



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年6月5日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

パラスポーツにともした熱意

迫る



パラスポーツは今でこそ注目されていますが、普及し始めた頃は社会的な関心は高くはありませんでした。選手やチームに対する支援は乏しく、「障害者のリハビリテーション」とも見られていました。そのような「逆風」の中で、北京冬季

パラリンピックのノルディックスキー距離（クロスカントリー）の日本代表チームリーダーを務めた荒井秀樹さん=写真・左=は奮闘してきました。インターネットが普及していなかった時代、選手集めや、スポンサー探しに苦労しまし

5日(日)=1、3面
た。荒井さんは、大会のパンフレットに載った選手宿舎に電話して目を付けた選手を勧誘したり、スポーツに興味がありそうな企業に支援を求める手紙を送ったりしてきました。そのような地道な努力と、パラスポーツに対する熱意に迫ります。

海の酸性化で何が起きるの？



化石燃料の使用などで大気中に放出される二酸化炭素は地球温暖化を招く温室効果ガスとして問題視されますが、もう一つの問題があります。海水に二酸化炭素が吸収されることで起きる「海洋酸性化」です。近年の研

究で、日本の近海でも酸性化が進んでいることをうかがわせる現状が明らかになり、カキ=写真=やサンゴなどの生物に悪影響を及ぼす将来予測も出ています。どんな現象なのか、「なるほドリワイド」で解説します。

5日(日)=総合面



プロ野球・ロケットの佐々木朗希投手の20歳5カ月の史上最少で完全試合を達成しました。高校時代から目先の勝利より、将来の飛躍を優先し、

論点 才能開花 人材育成のヒント

8日(水)オピニオン面

た育てられ方をした結果、才能を大きく開花させました。そこから見える人材育成のヒントとは。ロケットの投手コーチとして指導した元大リーグの吉井理人

特集ワイド 在日ポーランド大使館の思い



在日ポーランド大使館のツイッターには時折、容赦ないロシア批判が書き込まれています。「ならず者国家」「挑発的で野蛮な攻撃」。それは東西冷戦時代、同様に旧ソ連の高圧的な支

6日(月)=夕刊特集ワイド面
配を受けた東欧諸国の中でも際立っています。批判の言葉には、どんな思いが込められているのか。一等書記官、トマシュ・グヴォズドフスキさん=写真=に直接、聞きました。

竹橋の窓辺から

編集後記



汗ばむ陽気が続き、夏の訪れを感じます。夏と言え、思い出すのは「読書感想文」。本を読んだり、絵を描いたりするのは好きです。言葉に、感情は書き留め、親にも先生にも手紙に、記憶が残りません。記者の生活にも代わり、私の子どもの時も、家庭のお悩み解消に役立つ計画をします。楽しいイベントをお楽しみください！(山本有紀)

新毎日



2022年2月21日 毎日新聞創刊150年